

フィールド風

(現場)からの

宮田守男

10月下旬、大北地域の市町村役場を退職したメンバーと上越市を旅する。参加者の楽しみは、今年6月に建物を丸ごと建て替えり

ニューアルオープンした上越市水族博物館「うみがたり」だ。日本海をテーマにした大水槽や、頭から足もとまで360度アクリルガラスの水中トンネル、通年で実施するバンドウイルカのパフォーマンスのほか、新潟県初となるシロイルカの展示や、世界一の飼育数を誇るマゼランペンギンの展示コーナーはアクリルなどの壁も無く、見所が盛りだくさんの水族館に大満足だ。

だが参加者の上越市のイメージを聞くと、水族館以外思い当たらないとの声が多いので、館内のパンフレット置き場で上越市のパンフレットを探すが見つからず、直江津と高田のパンフレット。上越市は、昭和46年に高田・直江津が対等合併で発足した市で、合併から47年目を経過して

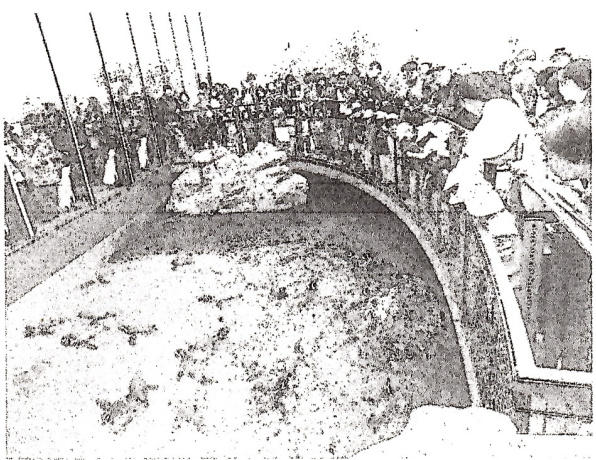
多くの場面に 新しい発見や出掛ける事で、 新しい発見や出掛ける事が楽しめる

この水族館に大勢が訪れる機会に上越市をアピールしないのかと不思議に思えてしまつた。

車中からセイダカアワダチソウの黄色い花が一面に埋めた景色。福井新聞の越山若水さんのコラムに、花が一面に咲き乱れる春より、しみじみとした情緒は秋の方が優れている。古代から日本人は季節の移ろいに敏感で、とりわけ秋のものと、農業の先行き不安と、悲しさに心を寄せた。農業者の先行き不安

が、年々増えるばかりで、国道に接した休耕田でも確認できる状況。行政でも集落支援員を中心に特定外来植物の駆除作業に取り組んでいる内容が、区長連絡会でも報告された。頼もしい限りの取り組みの成果で地域の魅力の継続に期待して行きたいと思わせた。

月末開催された全日本スキー選手権ジャンプ競技。観衆の少なさに寂しさを感じてしまつた。場内の選手紹介で「所属・白馬中学校」のアナウンス。なぜか嬉しくなり、見上げる



マゼランペンギンへのイベントに参加の幼児たちの歓声が楽しい思い出に

と素晴らしいジャンプに大喝采。宮嶋林湖選手はラーツ13位・ノーマル10位の好成績だ。松沢幸選手・笹川美子選手も含め白馬中学選手に今後も注目して行きたいと、秋を楽しめた充実した日々感謝だ。

(NPO法人信州地域社会フォーラム理事・白馬村森上)